

令和3年度 全国私立中学高等学校
私立学校専門研修会

次世代リーダー育成部会 実施報告

◇主催 一般財団法人日本私学教育研究所 ◇後援 日本私立中学高等学校連合会

伝統の継承と深化 ～建学の精神を昇華していくために～

昨年度の当部会を通じて、私学のリーダーは互いにネットワークを構築するとともに、ビジョンとロマンを持って自らの強みを打ち出し、建学の精神を具体的な教育活動へと具現化することが、各学校の未来に向けた針路を示す上で鍵となることを学んだ。

本年度の当部会は、私立学校が持続的に発展するために核となる建学の精神を如何に次代へと昇華していくかについて考察する。

初日は、初めに吉田晋・日本私立中学高等学校連合会会長／当研究所理事長（中央教育審議会委員）が、私学を取り巻く最新情勢や課題について講話する。講演では、伊勢神宮、神道文化研究に造詣の深い櫻井治男・皇學館大学名誉教授を講師に迎え、日本の伝統文化について学び、伝統の継承と深化について考察する。

2日目は、古来より特別な神社として敬われてきた伊勢神宮の参拝と日本の伝統である神道を建学の精神とし「日本の伝統を学び、社会にこれを活かすことに努め、文明の発展に貢献する日本人の育成」を行う皇學館中学校・高等学校を視察する。

意見交換会・ネットワーキングパーティ等の交流プログラムでは、リーダーが本音で語り合うネットワーク構築の機会を提供する。

会 期 令和3年11月15日(月)～16日(火)

会 場 鳥羽国際ホテル

〒517-0011 三重県鳥羽市鳥羽1-23-1（近鉄・JR「鳥羽駅」下車・シャトルバスもしくはタクシー3分）

プログラム 講 話 吉 田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長

日本私立中学高等学校連合会 会長(中央教育審議会委員)

講 演 「伊勢神宮における“伝統”と時代変革」

櫻井 治男 皇學館大学 名誉教授

特別プログラム 伊勢神宮参拝

学校視察 皇學館中学校・高等学校(三重県伊勢市)

参加者数 39名

参加対象

A. 次世代リーダー(次世代の理事長・校長等)を志す者

B. ニューリーダー(新任の理事長・校長等)

C. 次世代リーダーを育成する現職リーダー(現職の理事長・校長等)

※ 参加対象校:都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校

基本日程

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	20			
		30					30	40	50		30	30			
11月15日							受付	開 会 式		講 話		講 演		意 見 交 換 会	ネ ッ ト ワ ー キ ン グ パ ー ティ
11月16日		移 動	伊 勢 神 宮 参 拝		移 動 ・ 昼 食		学 校 視 察		移 動						

プログラム・内容は変更となる場合があります。

☆研修会日程☆

【1日目】 11月15日（月）

〔会場 **鳥羽国際ホテル**〕

13:30～ 14:00	受付	ハーバーウィング 6階<海城>	
14:00～ 14:30	開会式 ☆開 会 ☆主催者挨拶 ☆研修会運営方針説明 ☆来賓・役員・専門委員紹介／日程説明	司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所 理事・事務局長 平方 邦行 一般財団法人日本私学教育研究所 理事・所長 菅沼 宏比古 次世代リーダー育成専門委員長	
14:40～ 15:40	講話	司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所 理事・事務局長	
14:40～ 15:10		近藤 彰郎 一般財団法人日本私学教育研究所 理事 日本私立中学高等学校連合会 副会長 一般財団法人東京私立中学高等学校協会 会長	
15:10～ 15:40		吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長 日本私立中学高等学校連合会 会長（中央教育審議会委員）	
15:50～ 17:20	講演 ☆演 題 ☆講 師	司会 梅村 光久 次世代リーダー育成専門委員 「伊勢神宮における“伝統”と時代変革」 櫻井 治男 皇學館大学 名誉教授	
17:30～ 18:30	意見交換会 討議テーマ	ハーバーウィング 5階<潮騒>/オーシャンウィング 1階<日和> 「伝統の継承と深化～建学の精神を昇華していくために～」	
	グループ	ファシリテーター	会場
	1グループ	菅沼 宏比古 専門委員長	ハーバーウィング 5階<潮騒>
	2グループ	梅村 光久 専門委員	ハーバーウィング 5階<潮騒>
	3グループ	前田 均 専門委員	ハーバーウィング 5階<潮騒>
	4グループ	森 涼 専門委員	オーシャンウィング 1階<日和>
	5グループ	平方 邦行 理事・所長	オーシャンウィング 1階<日和>
18:30～ 20:00	ネットワーキングパーティ （着席形式） ☆開会挨拶 ☆乾 杯 ☆懇 談 ☆閉会挨拶	ハーバーウィング 6階<海城> 司会 前田 均 次世代リーダー育成専門委員 梅村 光久 次世代リーダー育成専門委員 森 涼 次世代リーダー育成専門委員	

講師紹介 **櫻井 治男** 皇學館大学 名誉教授

〈講師プロフィール〉 **櫻井 治男**（さくらい はるお）

1949年京都府生まれ。1971年に皇學館大学文学部を卒業、1973年に同大学院修士課程を修了し、同大学助手。1993年に同大学教授、2005年社会福祉学部学部長を歴任。日本宗教学会評議員、三重県文化財保護審議会会長など役職多数。博士（宗教学）。専門は宗教学、宗教社会学、神社祭祀研究。著作に『地域神社の宗教学』（弘文堂）など多数。2018年に南方熊楠賞を受賞。

【2日目】 11月16日（火）

8:30～ 9:00	移動（※鳥羽国際ホテルから貸切バス）
9:00～ 11:00	伊勢神宮参拝
11:00～ 13:00	移動（※伊勢神宮から貸切バス）・昼食
13:00～ 15:00	学校視察 皇學館中学校・高等学校 三重県伊勢市楠部町 138 【視察プログラム】
13:00～ 13:30	学校説明
13:30～ 14:40	施設・授業見学
14:40～ 14:50	全体会 質疑応答
14:50～ 15:00	お礼のことば・総括 菅沼 宏比古 次世代リーダー育成専門委員長
15:00～ 16:00	移 動（※貸切バスで鳥羽国際ホテルへ） 解 散

プログラム・内容は変更となる場合があります。

視察校紹介 **皇學館中学校・高等学校**

学校法人皇學館 理事長 小串 和夫 / 皇學館中学校・高等学校 校長 木村 元茂

学校法人皇學館は建学の精神を「神宮皇學館」に受けています。明治15年、伊勢神宮の学問所である林崎文庫に開設された「皇學館」は、日本古来の神典や国文、国史を研究する国の中心的機関でした。その教育精神は、我が国の歴史と伝統に根ざした道義と学問とを学び、日本人としての正しい自覚を確立して実社会での運用に努め、文明の発展に貢献するというものであり、この根本精神は、創立以来130年の時を経ても本学園の学風として脈々と受け継がれています。本法人には、大学院、大学、高等学校、中学校があり、高等学校は令和5年度に創立60周年、中学校は45周年を迎えます。

中学校は高校までの6年間を通して教育の充実を図っています。また、高等学校は特別進学コース、進学コースおよび六年制コースからなり、ICT環境を整備してグローバル教育や主体的・能動的な学びの実践を行っており、ほとんどの生徒が大学や専門学校に進学します。

現在、生徒の学習意欲をさらに高め進路希望の実現につなげるため、各コースの改革に取り組んでいるところです。

◆ 講師・指導員（順不同） ◆

櫻井 治男 皇學館大学 名誉教授
木村 元茂 皇學館中学校・高等学校 校長
吉田 晋 富士見丘中学高等学校 理事長・校長
近藤 彰郎 八雲学園中学高等学校 理事長・校長
平方 邦行 一般財団法人日本私学教育研究所 理事・所長

◆ 専門委員・指導員（順不同） ◆

菅沼 宏比古 学校法人西海学園 理事長
近藤 彰郎 八雲学園中学高等学校 理事長・校長
森 涼 学校法人石川高等学校・石川義塾中学校 理事長・校長
梅村 光久 学校法人三重高等学校 理事長
前田 均 鹿屋中央高等学校 理事長・校長
川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所 理事・事務局長

◆概要◆

本年度当部会は、11月15日(月)～16日(火)、三重県鳥羽市・鳥羽国際ホテルにおいて「伝統の継承と深化～建学の精神を昇華していくために～」を研究のねらいに開催し、17都府県から39名が参加した。

初日の開会式では平方邦行・当研究所理事・所長の主催者挨拶に続いて、菅沼宏比古・次世代リーダー育成専門委員長の運営方針説明を述べた。近藤彰郎・当研究所理事、吉田晋・当研究所理事長による講話、櫻井治男・皇學館大学名誉教授による講演「伊勢神宮における“伝統”と時代変革」を行った。

次世代リーダー専門委員がファシリテーターを務めての参加者同士による意見交換会の後、初日最後のプログラムとしてネットワーキングパーティを行い、参加者は情報交換を行うとともに交流を深めた。

2日目は特別プログラム「伊勢神宮参拝」と皇學館中学校・高等学校への学校視察を行った。木村元茂・視察校校長による学校説明、施設・授業見学、全体会を行い盛会裡に終了した。参加者からは全てのプログラムが好評で、「講話は身に染みた」「教育にも通じる話が多く、継承について改めて考えさせられた」「本学に足りない部分を見直すきっかけとなった」といった意見が寄せられた。

開会式

主催者挨拶 平方邦行・当研究所所長

日本私学教育研究所は、クリエイティブ・クラスを念頭において研修を実施している。21世紀はクリエイティブ・クラスの時代と言われている。私立学校はどのような教育によって、21世紀を担うZ世代と呼ばれる子どもたちをクリエイティブ・クラスに育てていくのが重要だ。更に、想像できないような人口減少が日本では起きる。その状況乗り越えていくために現状をしっかりと把握し、私立学校一校一校が、あるいは私立学校全体が、進むべき道を模索し進んでいかないといけない。



研修会運営方針説明 菅沼宏比古・次世代リーダー育成専門委員長

この次世代リーダー育成部会では自分が将来、学園や学校でトップになった時にすべきことを学んでいってほしい。今回「伝統の継承と深化」を研究のねらいにしている。我々私立学校は伝統のある学校が多くあるが、その伝統を継承していくということは時代の流れの中で大変難しくなっている。そうした状況の中でも、しっかりと伝統を継承していく必要がある。私立学校はどのように継承していくべきなのか皆さんに考えてほしい。皆さんには色々な場面で、名刺交換をして、仲間を増やして、今後、切磋琢磨したり、助け合ったりとしていただければと感じている。



講話

近藤 彰郎 一般財団法人日本私学教育研究所 理事 日本私立中学高等学校連合会 副会長 一般財団法人東京私立中学高等学校協会 会長

改めてその建学の精神を見直し、創立者がどのような思いで学校を作ったのかを見直してほしい。教育を行わないといけないと思い立って自分の資産を投げうって寄附行為という形で、協力者を得て創立し、そこから伝統ができた。その人達の思い、その原点を取り戻さないと、私立学校としてこれからの危機を乗り越えて行く方法が見つけられないと思う。教育を行っていく上で、一丸となっていくことは大事だ。学校法人は利益をあげるために存在しているのではなく、いい教育を社会に残し、日本の未来を担う子供たちを育てていくためにある。そういう思い・情熱をもった組織にしてほしい。時代の要請をいち早くとりいれつつ、建学の精神の根幹を引き継いでいってほしい。



吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長
日本私立中学高等学校連合会 会長（中央教育審議会委員）

当研修会を通じて、私立学校は仲間あつての私立学校で、それぞれは独立体だが、力をあわせていかないといけないことを理解してほしい。私立学校の教育を行っていけるのは、私立学校がよい教育をやっているということを理解されているからだ。経営をしている上で、ガバナンス、コンプライアンスは当たり前を考えている。学校では、子供にルールを守れと教えている。我々は先達の思いを受け継いだ皆さんが第一義的に生徒だ、教育だ。それを忘れないでほしい。大学入学共通試験から英語4技能試験と記述式がなくなった。しかし、推薦入試や2次試験で英語4技能と記述式を行う大学は確実に増える。ここを意識して受験指導をしてほしい。そして、日本私立中学高等学校連合会や各県の私学協会、当研究所の活動に協力してほしい。



講演

「伊勢神宮における“伝統”と時代変革」

櫻井 治男 皇學館大学 名誉教授

伊勢の神宮における伝統と時代の要請による変革についてお話したい。神宮は2つの主要となるお宮、皇大神宮（内宮）、豊受大神宮（外宮）と123の宮社をあわせた125社からなっている。内宮は皇祖、天照大神が祀られており、外宮は豊受大神、食をつかさどる神様、産業の神様を祀っている。内宮の鎮祭伝承は、日本書記によると、垂仁天皇の御代に、倭姫命が恒久の祭場を求めて各地を巡っていた時に、伊勢は常世の国から波が幾重にも押し寄せてくる非常に素晴らしい国なのでここに鎮まりたいと天照大神から倭姫命に神託があり、現在の伊勢の地に鎮祭されたのが始まりだ。外宮は時代が下り雄略天皇に天照大神から朝夕の食事が不自由であるので丹波の国から等由気大神を迎えるようにお告げがあったことが始まりとなっている。古代の神宮は律令国家体制のもと維持・運営されていた。行政的には大宮司という内宮と外宮の上にもたがる行政官が朝廷から任命されて差配をし、日常管理や祭祀は禰宜が外宮と内宮とに分かれて司っていた。中世に律令国家体制が機能せず、朝廷の力も衰微すると、神宮を維持するため、神主が積極的に日本の各地へ出て神宮の神徳を広報し、武将へ家門の繁栄や戦勝祈願を行うことで崇敬を集め、有力者から神領地の寄進をうけて運営していた。江戸時代になると庶民の参詣が盛んになり、伊勢と在地の人たちを結びつける存在としての御師が非常に発達した。明治になり、新政府の方針で大規模な改革が行われた。伊勢の神宮は近代国家の手による経営となり、天皇の神宮参拝のはじまり、国家による旧神領地の上地、神職数の削減と実力・能力に基づく人事制度への変更、祭祀制度の改正、御師の廃止、神苑の整備などが行われた。長年の祭祀執行も、伝統儀式のいずれを選び、どれを捨てるかの選択が必要であった。太平洋戦争後、宗教法人神宮となった。



神宮の祭りは、大きく5つに区分される。毎日朝と夕に大御饌（おおみけ）をお供えする日別朝夕大御饌祭。年中恒例祭、特に重んじられる6月と12月の月次祭と10月の神嘗祭。20年に一度の式年遷宮。その他に礼典や臨時祭がある。式年遷宮は20年に一度、東西の御敷地を交互に利用し、ご神体の鎮まる建物等を全て同じに造り、神々を新殿へ遷す祭事。式年遷宮の始まりは、神宮の古記録によれば天武天皇の御代に制度が設けられて、持統天皇の御代に第一回目が行われた。7世紀の後半のことである。しかし、室町時代から戦国時代にかけての120年間、式年遷宮が行われなかった時期がある。但し、補修や仮殿遷宮は行われていた。仮殿遷宮が行われていたことで、大工の技術や必要な情報が現在まで伝わった点もある。現在の建物は、遷宮開始当初とほとんど変わらないとされる。元々この式年遷宮は神嘗祭と主旨を同じくするもので、毎年、祭場を新たに飾り秋の収穫を感謝奉賛する祭りが、20年に一度建物も全て新たにして行われる「大神嘗祭」といえる内容であった。式年遷宮が中断し再興されたあとは、社殿の建て替えを主眼とする「造替遷宮」の考え方が定着した。遷宮のプロセスは造宮の準備、社殿等の造宮工事、そして遷御の儀が行われる。なぜ20年に一度なのかについては諸説ある。結果論としては、技術伝承があげられる。一定の時期での世代交代、式年遷宮が終わってトップが引退し、次の若い人が遷宮を経験して

トップを担う。宮大工も棟梁の技を学んだ若い人のなかから次の棟梁がでてくる。遷宮の意味も様々な説がある、近年は「常若説」といって永遠の若さを象徴する営みと説かれている。時代の中で解釈が幅をもって、多様な考え方が示されている。式年遷宮を行う上で問題となっているのが御用材の確保だ。現在はなんとか大木を調達し、用い方に無駄のない工夫がなされている。それでも確保は、難しい状況であるので、神宮では長期の用材（檜）の育成を独自に行っている。神宮林の経営方針は神域の尊厳維持とともに、御用材確保、五十鈴川の水源涵養など、諸活用が図られており、環境保全にも大きな役割を果たしている。かつて遷宮の時に、木材の無駄遣いだという議論がおこった際、神宮の森は伐採と植林の適切な循環で森が育っている状況と経営方法の先見性を示し、海外からも注目された。式年遷宮で神々の御料として奉献される御装束や神宝も多岐にわたる。伝統技術の粋をあつめた品々なので調製の継承が難しいものもある。漆も大量に使用するため、神宮として漆を育てる試みもなされている。祭祀に使用される塩や米も独自の塩田・神田土地を持ち作られている。

技の継承には人の育成とともに、その人が生活できるような間接的な支えが必要になる。日本で一人しかいない技術の伝承者がその技術を次の方に継承できる状況をつくれるか、高度な技も時代変革の中でどう積極的に伝習していくか待ったなしの課題であり、様々取り組みがなされている。また、遷宮の心をどう伝えていくのか。遷宮の営みがどのような価値を持っているのかに対して、伊勢の神宮がなぜこの地に祀られるようになっているのか、その原点やどのように先人達が継承してきたかを検証しながら、単に伊勢の神宮だけの問題ではなくて、広く日本文化の継承の在り方や、森や自然への寄与の在り方という観点をいれた理解への取組みが大切になってきている。

意見交換会

5つのグループに分かれて、参加者同士の意見交換会を行った。働き方改革や各校が行う先進的な取り組み、LGBTQに関する対応など、幅広い内容について意見交換が行われた。参加者は情報を交換するとともに日頃の悩みや課題を共有した。



グループ 1



グループ 2



グループ 3



グループ 4



グループ 5

ネットワーキングパーティ

梅村光久・次世代リーダー育成専門委員から開会挨拶が行われ、参加者より指名された高橋あゆち・学校法人井之頭学園理事長が乾杯の挨拶を行った。全国からの参加者が幅広く情報交換を行った。参加者の各テーブルから1名ずつ代表者が一言ずつ挨拶をおこなった、つづけて、吉田晋・当研究所理事長が「参加者からの言葉を聞いて、12回目となる当研修会が素晴らしい会になったことを嬉しく思っている。私立学校は皆さんの思いが通じる。ネットワークをつくって皆で私学を発展させていってほしい。」と参加者へメッセージを送った。最後に、森涼・次世代リーダー育成専門委員より閉会の挨拶が行われ、初日を終了した。



梅村光久・専門委員



次世代リーダーによる乾杯



吉田晋・理事長



森涼・専門委員

特別プログラム「伊勢神宮参拝」

伊勢神宮内宮の厳かな雰囲気の中、参加者は五十鈴川で手を清め、参拝を行った。初日の講演で学んだ伊勢神宮の伝統と継承を肌で感じる事ができる機会となった。参拝後、自由行動となり、参加者は内宮、おはらい町、おかげ横丁を散策し、見聞を広めるとともに交流を深めた。



学校視察

皇學館中学校・高等学校の学校視察では、木村元茂・同校校長による挨拶、中学校説明に続いて、中学校の施設・授業見学を行った。授業見学では、学校が取り組むICT活用や、設備等について視察するとともに、参加者から質問が視察校教員へ質問がなされた。また、木村元茂・同校校長が高等学校説明とともに、校長として日頃、教員に伝えていること、「迷ったら原点に戻る」ことを話した。最後に、質疑応答を行い終了した。



木村元茂・
皇學館中学校・高等学校 校長



施設・授業見学



全体会

総括

菅沼宏比古・次世代リーダー育成専門委員長

これからの私学を背負っていく先生方に、今の状況を知ってもらいたいし、色々なことを考えてほしい、感じてほしいというのが、昨日の講話に込められた吉田理事長、近藤先生のお気持ちではないかと思う。昨日の講話を聞いて、自分の学校で何をやっていくのか、また日本全体の私学の発展のためにどういうことができるのかを是非考えてほしい。先生方も大変だと思うがニューリーダーの皆様にもふんばってほしいと思っている。



アンケート

(回答者 6 名 / 39 名 ・ 回答率 15%)

問 1. 当研修会への参加の目的についてお書き下さい。

- 次世代リーダーの方々とのネットワークづくりと意見交換。
- 次世代リーダーを志す者としての素養を高めるため。
- 新しく管理職となり勉強するため。

問 2. 当研修会の各プログラム・内容等について、参考になった点、感想、意見等をお聞かせ下さい。

講話

- 私学の教育を守っていくために私学が結束することの必要性と建学の精神を軸として今後の針路を考える重要性を学んだ。
- 講話はとても身に染みた。
- 変化の時代、改革をしなければいけないが、その中で大切な想いの継承を改めて強く気持ちを持たなければいけないと感じた。

講演

- 教育にも通じる話が多く、継承について改めて考えさせられた。
- 最後の「遷宮の心の継承」は、まさに学校精神の継承と感じた。
- 伊勢神宮の歴史から今日までの流れ、改革について細やかにご説明いただき、時代とともに守り抜いてきたこと、そのために変化させてきたことについて学ぶことができ、学校運営の参考になった。

意見交換会

- 他校と共通する悩みを共有できただけでなく、先進的な取り組みも拝聴できた。
- 皆さんがお持ちの問題は共通していることを再認識させていただいた。もっと時間を取って話ができると良いなと思った。
- 他校の状況を知ることができ有意義な時間になった。色々学べる貴重な時間だった。

特別プログラム「伊勢神宮参拝」

- 伊勢神宮参拝は前日の講話を受けでの参拝となり、1つのことがとても深く感じ取れた。
- 素晴らしい体験をさせていただいた。

学校視察

- 環境変化が激しい最近、現状維持は後退に近く、教職員で価値観を共有して意思決定を速くする必要があるという話が印象に残った。
- 少子化の中、苦勞と工夫をされていることを感じた。
- 本学に足りない部分、管理職としての教員研修等、様々な面で自校を見直すきっかけとなった。

◆都道府県別参加者数◆

No.	都道府県	人数	No.	都道府県	人数	No.	都道府県	人数	No.	都道府県	人数
1	北海道	0	13	千葉	1	25	滋賀	0	37	香川	0
2	青森	0	14	神奈川	3	26	京都	2	38	愛媛	0
3	岩手	0	15	東京	10	27	大阪	4	39	高知	0
4	宮城	0	16	富山	1	28	兵庫	3	40	福岡	2
5	秋田	0	17	石川	0	29	奈良	0	41	佐賀	1
6	山形	0	18	福井	0	30	和歌山	0	42	長崎	1
7	福島	0	19	山梨	0	31	鳥取	0	43	熊本	0
8	新潟	0	20	長野	0	32	島根	0	44	大分	0
9	茨城	1	21	岐阜	1	33	岡山	1	45	宮崎	0
10	栃木	0	22	静岡	0	34	広島	3	46	鹿児島	2
11	群馬	0	23	愛知	1	35	山口	0	47	沖縄	0
12	埼玉	0	24	三重	2	36	徳島	0	計 17 都府県 39 名		